

岡山県感染症週報 2024年第47週 (11月18日～11月24日)

◆2024年 第47週 (11/18～11/24) の感染症発生動向 (届出数)

12月1日は『世界エイズデー』です

岡山県では『世界エイズデー』の関連行事として、エイズに関する正しい知識の啓発活動および保健所・支所で夜間・休日などの HIV 検査を実施します。詳しくは「[今週の注目感染症①](#)」をご覧ください。



レッドリボン
エイズに対する理解と
支援の象徴

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』を発令中です

岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です

■全数把握感染症の発生状況

第46週	5類感染症	梅毒	3名	(40代 男 2名、50代 男 1名)
第47週	2類感染症	結核	1名	(70代 女)
	4類感染症	日本紅斑熱	1名	(60代 男)
	5類感染症	急性脳炎	1名	(小学生 男)
		侵襲性肺炎球菌感染症	1名	(60代 男)
		梅毒	5名	(20代 女 1名、30代 男 1名、40代 男 3名)

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ/COVID-19 定点 84、小児科定点 54、眼科定点 12、STD 定点 17、基幹定点 5

- 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は、県全体で 185 名 (定点あたり 2.20 人) の報告がありました。
- マイコプラズマ肺炎の報告が多くなっています。

効果的な場面でのマスク着用！



© 岡山県「ももっち」

- [新型コロナウイルス感染症 \(COVID-19\)](#) は、県全体で 185 名の報告があり、前週から増加しました (定点あたり 2.00 → 2.20 人)。詳しくは、「[★新型コロナウイルス感染症 \(COVID-19\) 情報](#)」および岡山県感染症情報センターホームページ『[新型コロナウイルス感染症 \(COVID-19\) 情報](#)』をご覧ください。
- [インフルエンザ](#) は、県全体で 145 名の報告があり、前週から増加しました (定点あたり 1.37 → 1.73 人)。岡山県は 11 月 21 日に「インフルエンザ注意報」を発令し、広く注意を呼びかけています。詳しくは「インフルエンザ週報」および岡山県感染症情報センターホームページ『[2024/25 年シーズン インフルエンザ情報「インフルエンザ注意報」発令中!](#)』をご覧ください。
- [日本紅斑熱](#) は、2024 年第 47 週に 1 名の報告があり、2024 年の累計報告数は 21 名となりました (2023 年の同時期: 13 名)。ダニが媒介する感染症として、他に[重症熱性血小板減少症候群 \(SFTS\)](#) や[つつが虫病](#) などがあります。これらは、病原体を保有するマダニまたはツツガムシに刺咬されることで感染します。また、SFTS に関してはイヌやネコからの感染も報告されています。ダニに刺咬されないための予防対策等については[コラム「ダニが媒介する感染症に注意しましょう！」](#)をご覧ください。
- [梅毒](#) は、2024 年第 47 週に 5 名の報告があり、2024 年の累計報告数は 316 名となりました (2023 年の同時期: 270 名)。今年は県内において、1999 年の感染症法施行以降で年間報告数が最多となった昨年を上回る勢いです。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『[梅毒について](#)』をご覧ください。
- [マイコプラズマ肺炎](#) は、県全体で 11 名の報告があり、前週から減少しました (定点あたり 3.20 → 2.20 人)。この感染症は、小児や若い人の肺炎の原因として比較的多くみられ、主な症状は発熱、全身倦怠感、頭痛、せき (解熱後も長期にわたって続く) などです。詳しくは「[今週の注目感染症②](#)」をご覧ください。

疾病名	定点あたり患者数		推移	疾病名	定点あたり患者数		推移
	前週	今週			前週	今週	
インフルエンザ	1.37	1.73	↗	ヘルパンギーナ	0.09	0.07	↘
RSウイルス感染症	0.02	0.02	→	流行性耳下腺炎	0.07	0.13	↗
咽頭結膜熱	0.17	0.24	↗	急性出血性結膜炎	0.00	0.00	→
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.24	1.06	↘	流行性角結膜炎	0.17	0.17	→
感染性胃腸炎	3.13	2.46	↘	細菌性髄膜炎	0.00	0.00	→
水痘	0.11	0.02	↘	無菌性髄膜炎	0.40	0.20	↘
手足口病	1.96	0.96	↘	マイコプラズマ肺炎	3.20	2.20	↘
伝染性紅斑	0.00	0.06	↗	クラミジア肺炎	0.00	0.00	→
突発性発しん	0.15	0.22	↗	感染性胃腸炎（ロタウイルス）	0.00	0.00	→

【記号の説明】 前週からの推移 ↗ : 増加 → : ほぼ増減なし ↘ : 減少 増加・減少 : 前週比10%以上の増減

風しんの抗体検査(無料)を受けましょう！

<妊娠を希望する女性や同居する家族の方>

岡山県・岡山市・倉敷市では、先天性風しん症候群（CRS）*の予防を目的として、**風しんの無料抗体検査**を実施しています。

県内の抗体検査実施医療機関において、窓口で費用を負担することなく検査を受けることができます。検査の詳細は、下記のホームページ

岡山市・倉敷市以外 → [風しんの無料抗体検査が受けられます](#)（岡山県疾病感染症対策課）

岡山市 → [風しんの無料抗体検査](#)

倉敷市 → [風しん抗体検査について](#) をご覧ください。

<1962(昭和37)年4月2日から1979(昭和54)年4月1日までに生まれた男性>

風しんの抗体保有率が低い1962年4月2日から1979年4月1日までに生まれた男性に対して、まずは**無料で抗体検査**を受け、**抗体価が低い場合は風しんの予防接種を無料で受けることができる**制度が、実施されています（**2025年3月31日まで**）。以下の医療機関で、無料の抗体検査が受けられます。

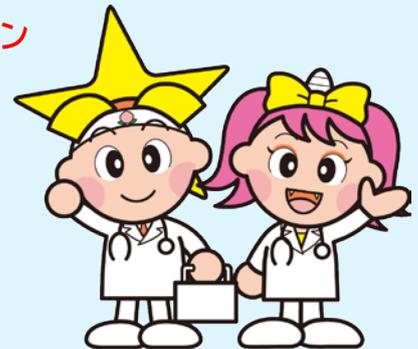
[市町村から届いたクーポン券を使用できる岡山県内の医療機関リスト](#)

*妊娠初期に風しんに罹患すると、出生児に先天性風しん症候群（CRS）と総称される障がいを引き起こすことがあります。先天性心疾患、難聴、白内障が3大症状です。

岡山県の2019年4月～2024年8月の風しんのクーポン使用実績(抗体検査)は、35.4%と未だに低い状況です！

CRSを防ぐためにも、必要な方は確実に予防接種を受けましょう！

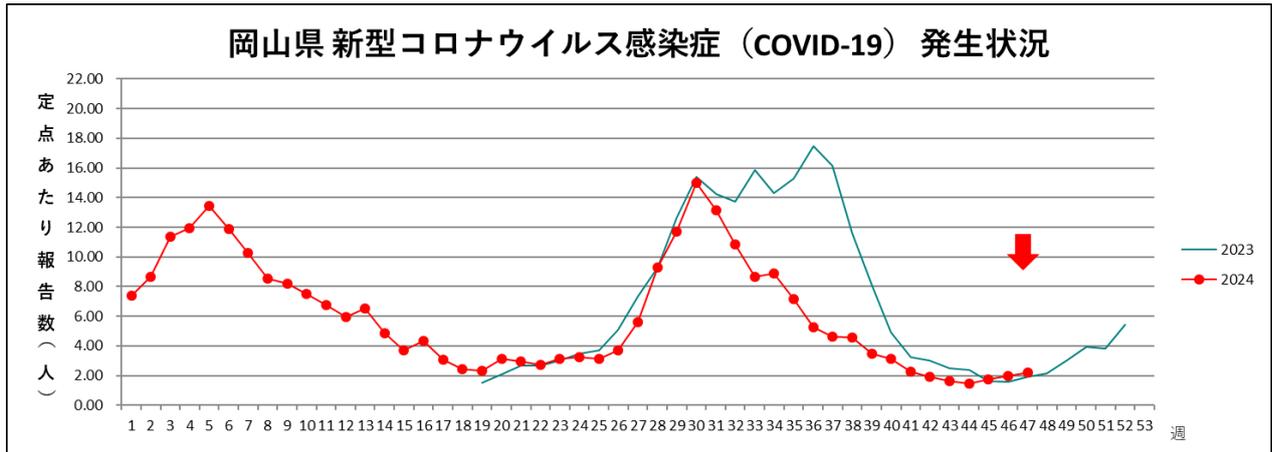
[風しんの追加的対策について（厚生労働省）](#)
[風疹に関する疫学情報（国立感染症研究所）](#)
[“風疹ゼロ”プロジェクト（日本産婦人科医会）](#)



★新型コロナウイルス感染症（COVID-19）情報

岡山県の流行状況（第 47 週（11 / 18～ 11/ 24））

○新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、県全体で 185 名（定点あたり 2.20 人）の報告がありました（84 定点医療機関報告）。



※ 2023 年は定点把握対象へ移行した第 19 週から表示しています。

※ 全数把握時のデータは[こちら](#)

※ 2023 年 5 月 7 日（2023 年第 18 週）までの全数把握の患者数をもとに、2023 年 5 月 8 日以降の定点医療機関からの報告患者数を抽出して集計した患者数の推移（参考値）はこちらをご覧ください。→ [厚生労働省 HP](#)

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、県全体で 185 名の報告があり、前週から増加しました（定点あたり 2.00 → 2.20 人）。地域別では、備中地域（3.58 人）、美作地域（3.50 人）、倉敷市（3.06 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。年代別では、10 歳未満、30 代、50 代および 70 代以上の年代で前週から増加しました。

基本的な感染防止策（効果的な場面でのマスク着用、手洗い等の手指衛生、換気、3 密（密閉・密集・密接）の回避、健康的な日常生活、体調不良時の備え）に留意し、自主的な判断により実施しましょう。

●新型コロナウイルス感染症（COVID-19）とは

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、世界中で流行が継続している呼吸器症状などを呈する感染症です。咳やくしゃみ、会話などの際に排出される、ウイルスを含んだ飛沫・エアロゾル（飛沫より更に小さな水分を含んだ状態の粒子）を吸入することで感染すると考えられます。通常は感染者に近い距離（1m 以内）で感染しますが、エアロゾルは 1m を超えて空气中に留まりうることから、換気が不十分な環境では、感染が拡大するリスクがあります。

●症状

日本で流行の主流となっているオミクロン株は、潜伏期間が 2～3 日と短く、また、発症前からウイルスを排出し、感染源となることが分かっています。上気道で増殖しやすい特性から、従来株（デルタ株等）に比べ、鼻汁・頭痛・倦怠感・咽頭痛などの風邪様症状の頻度が増加している一方で、嗅覚・味覚障害の頻度の減少が報告されています。しかしながら、肺炎が進展し、重症化する例も少なからず認められます。特に高齢者や基礎疾患（慢性閉塞性肺疾患（COPD）、慢性腎臓病、糖尿病、高血圧、肥満など）のある方がり患すると、重症化する割合が高い傾向にあるとされており、注意が必要です。また、妊婦では妊娠後期に感染すると、早産率が高まり、患者本人も一部は重症化することが報告されています。（[新型コロナウイルスに関する Q&A（一般の方向け）（厚生労働省）](#)）。

●ワクチン接種について

ワクチンは新型コロナウイルス感染症にかかった場合に重症化を予防する効果があるとされています。

ワクチンの全額公費による接種は終了しましたが、令和 6 年 10 月から次の方を対象にお住まいの市町村による定期接種が始まりました。

・ 65 歳以上の方

・ 60～64 歳で、心臓、腎臓または呼吸器の機能に障害があり、身の回りの生活が極度に制限される方、ヒト免疫不全ウイルス（HIV）により免疫の機能に障害があり、日常生活がほとんど不可能な方

詳しくは以下をご覧ください。

・ [新型コロナウイルスワクチンについて（厚生労働省）](#)

・ [新型コロナウイルスワクチンについて（岡山県疾病感染症対策課）](#)

なお、罹患後症状（いわゆる後遺症）については、以下をご覧ください。

・ [罹患後症状のマネジメント・第 3.0 版（2023 年 10 月 20 日発行）](#)

・ [『新型コロナウイルス感染症罹患後も続く症状（後遺症）にお悩みの方へ』（岡山県ホームページ）](#)



基本的な感染症対策！

© 岡山県「ももっち」

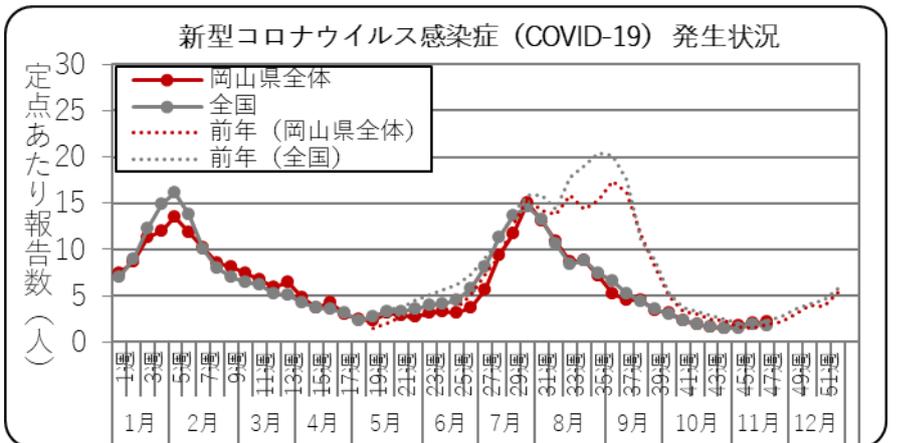
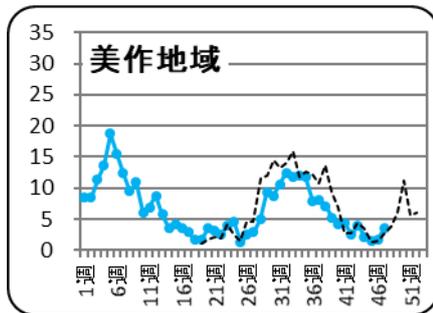
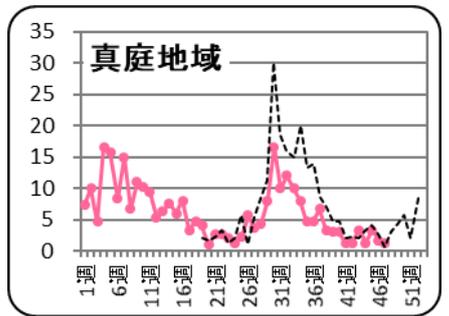
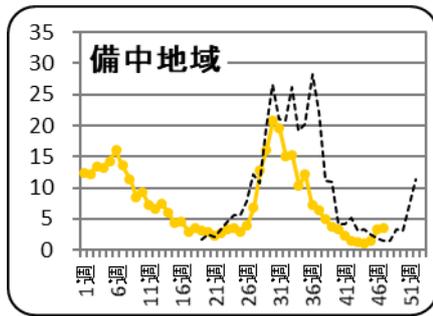
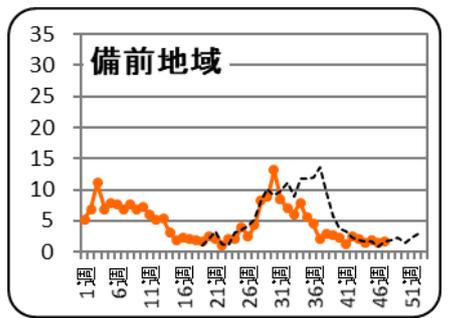
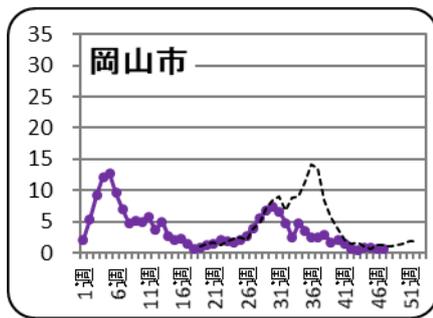
1. 地域別発生状況

地域名	発生状況（人）		推移	地域名	発生状況（人）		推移
岡山県全体	患者数	185	↑	備 中	患者数	43	↑
	定点あたり	2.20			定点あたり	3.58	
岡山市	患者数	13	↑	備 北	患者数	17	↑
	定点あたり	0.59			定点あたり	2.83	
倉敷市	患者数	49	→	真 庭	患者数	4	↑
	定点あたり	3.06			定点あたり	1.33	
備 前	患者数	24	↑	美 作	患者数	35	↑
	定点あたり	1.60			定点あたり	3.50	

【記号の説明】 前週からの推移 ↑：大幅な増加 ↑：増加 →：ほぼ増減なし ↓：減少 ↓：大幅な減少

大幅：前週比 100%以上の増減

増加・減少：前週比 10～100%未満の増減



※前年データは破線で示しています。

○全国の発生状況

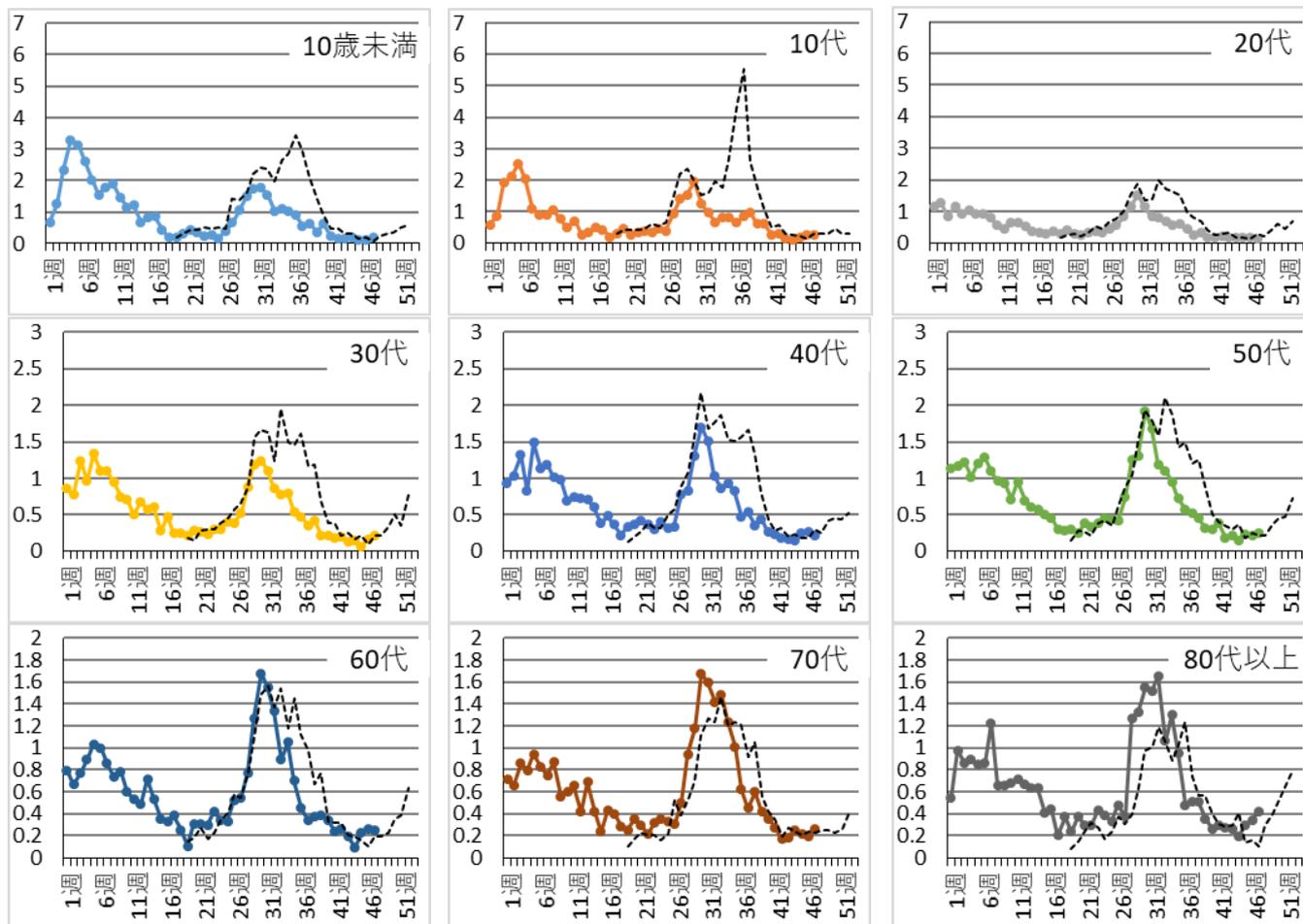
全国集計 2024 年第 47 週速報値（2024 年 11 月 27 日時点）によると、全国の定点あたり報告数は 1.81 人となり、前週とほぼ同数でした。

2. 年齢別発生状況

○第47週 (単位：名)

合計	0-3歳	4-6歳	7-9歳	10-14歳	15-19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
185	10	4	4	16	5	11	18	18	21	21	22	35

○年齢階級別の定点あたり報告数の推移



※前年データは破線で示しています。

📢 留意点：年齢階級別の報告数の考え方について

定点医療機関は、小児科定点が内科定点に比べて多く選択されているため、**報告数は小児に偏ります**。一方で、年齢階級別の報告数により、**経時的な流行全体の傾向(トレンド)と水準(レベル)の把握および年齢階級ごとにおける流行の傾向と水準を把握することができます**。

3. 新型コロナウイルス検出状況 (ゲノム解析)

ゲノム解析の状況は以下のホームページをご覧ください。

○岡山県の状況

→ [新型コロナウイルスのゲノム解析 \(岡山県感染症情報センター\)](#)

○全国の状況

→ [SARS-CoV-2 変異株について \(国立感染症研究所\)](#)

4. 入院状況

【入院基幹定点サーベイランス】

基幹定点医療機関（岡山県の基幹定点数：5）から新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による入院患者数等の報告（週単位）を受けて、入院患者の発生動向や重症化の傾向を経時的に把握することを目的としています。2023年9月25日（第39週）から開始しました（インフルエンザについても同様のサーベイランスが既に行われています。）。

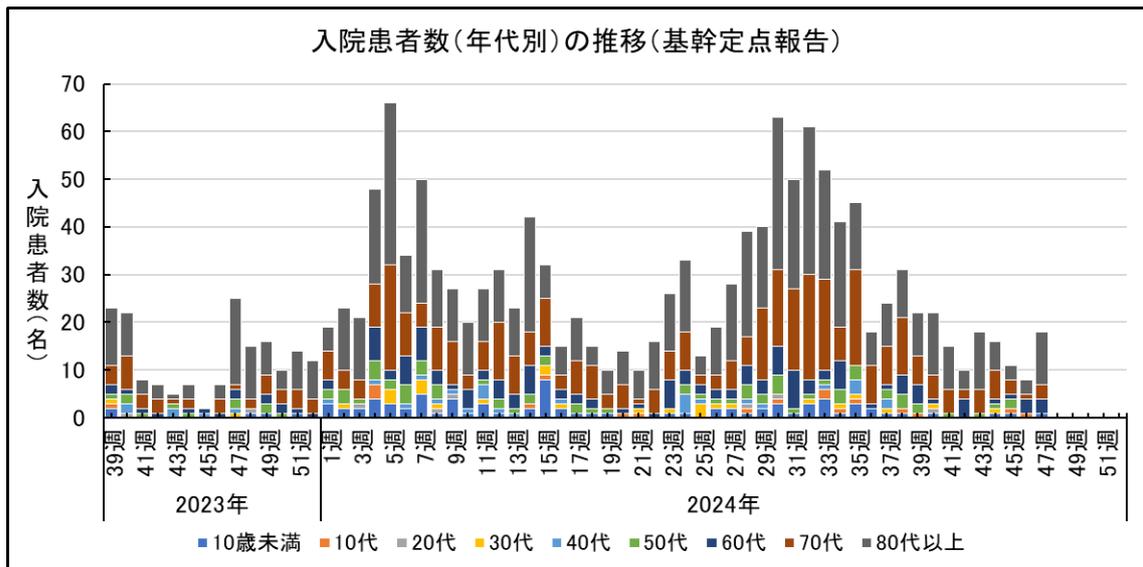
○入院基幹定点サーベイランス（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

【第47週 入院患者報告数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数			1							3	3	11	18
ICU入室*													
人工呼吸器の利用*												1	1
いずれにも該当せず			1							3	3	10	17

*重複あり

【入院患者数（年代別）の推移】



今週の注目感染症①

☆後天性免疫不全症候群（エイズ AIDS）

●後天性免疫不全症候群(エイズ AIDS)とは

エイズは、HIV（ヒト免疫不全ウイルス）に感染することによって起こる病気ですが、HIV 感染＝エイズではありません。HIV 感染後、自覚症状のない時期（無症候期）が数年続き、さらに進行すると免疫が低下し、本来なら発症しない病気（日和見感染症）などを発症するようになります。発症までの期間は通常数年程度を要するとされていますが、近年は短い症例もみられています。免疫が低下することで発症する疾患のうち、代表的な 23 の指標となる疾患が決められており、これらを発症した時点で、エイズ発症と診断されます。現在はさまざまな治療薬があり、きちんと服薬することでエイズ発症を防止することが可能になっています。

●感染経路、予防方法および感染の確認方法

HIV の主な感染経路は、①性行為による感染、②血液を介しての感染（覚せい剤などの依存性薬物の回し打ちによる注射器具の共用）、③母親から赤ちゃんへの母子感染、の 3 つです。

①は、不特定多数との性行為を避ける、性行為においてコンドームを使用することで予防可能です。

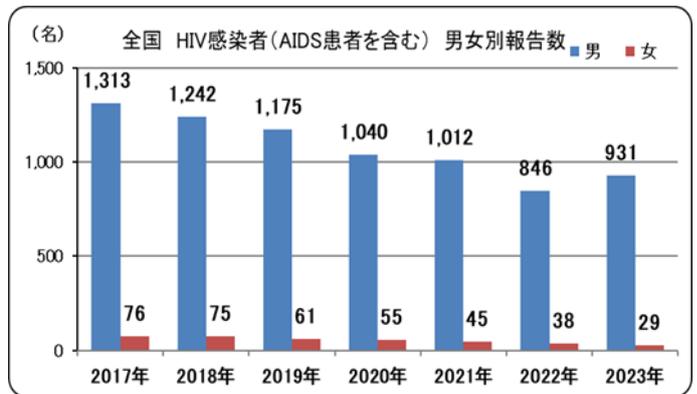
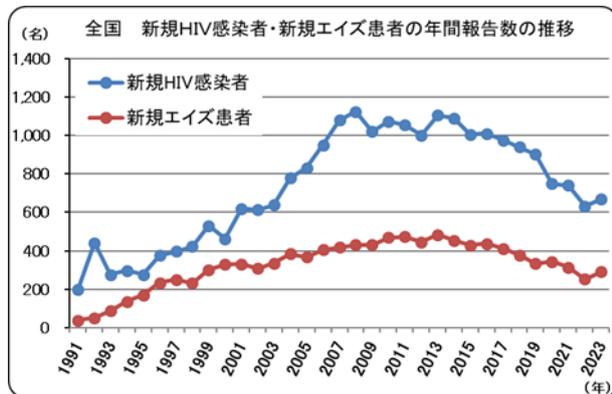
③は、母親が HIV 感染症の治療薬を飲むこと、帝王切開での出産、母乳を与えないことなどで赤ちゃんへの感染を 1 %以下に抑えることができます。（[エイズQ&A（エイズ予防情報ネット）](#)）

HIV に感染すると、通常 6～8 週間経過して、血液から HIV 抗体が検出されます。感染初期にはインフルエンザに似た症状が出ることもありますが、この症状からは HIV に感染しているかどうかを確認することはできません。HIV 検査を受けることで、初めて感染の有無を確認することができます。

●発生状況

・全国

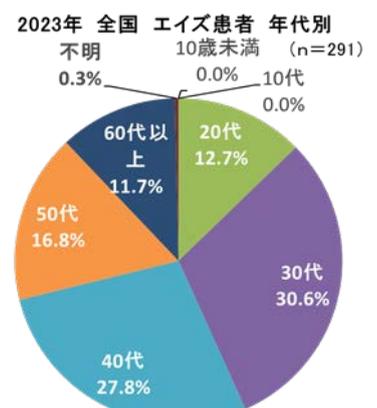
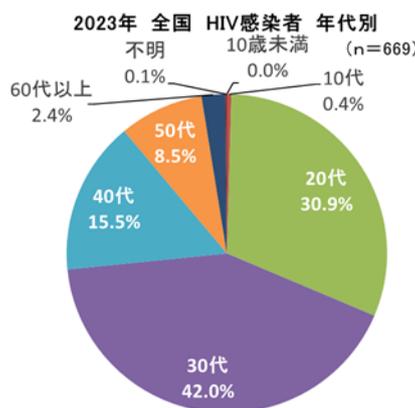
2023 年エイズ発生動向年報によると、HIV 感染者の新規報告数は 669 件（前年 632 件）であり、7 年ぶりに増加し、エイズ患者の新規報告数は 291 件（前年 252 件）であり、3 年ぶりに増加しました。これには、新型コロナウイルス感染症の流行以降減少していた保健所等での検査件数が、回復したことが影響している可能性があります。新規 HIV 感染者と新規エイズ患者も増加しており、今後の状況を注視していく必要があります。HIV 感染者の 76.4%、エイズ患者の 84.9%が日本国籍男性ですが、外国国籍男性の HIV 感染者における割合の増加も見られます。



年代別では、HIV 感染者は 20～40 代で多くなっています。またエイズ患者は、20 代以上の各年代に分散していますが、特に 30～40 代で多く、HIV 感染者よりも年代が高くなっています。

新規 HIV 感染者およびエイズ患者の感染経路は、性的接触によるものが約 80%で、HIV 感染者の 71.2%、エイズ患者の 54.0%が同性間性的接触と報告され、男性の同性間性的接触の多い傾向が継続しています。

なお、静注薬物使用および母子感染によるものは 0 件でした。

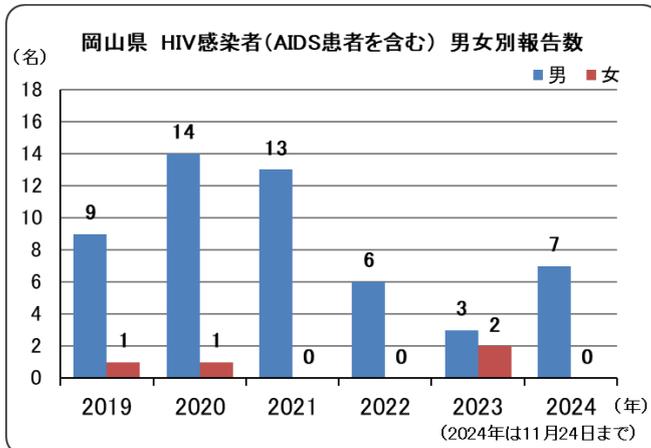
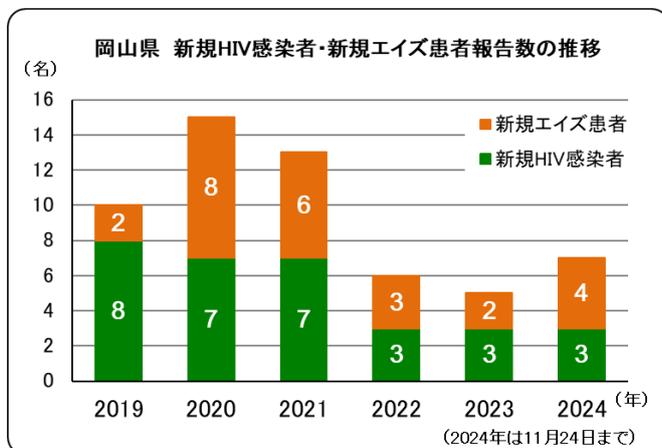


厚生労働省エイズ動向委員会 令和 5(2023)年 エイズ発生動向データより作成

都道府県別でみると、2023年 HIV 感染者報告数（人口10万人あたり）は、東京都（1.75人）、福岡県（0.88人）、大阪府（0.78人）の順で多くなっています（岡山県は0.16人）。また、エイズ患者報告数（人口10万人あたり）は、佐賀県（0.63人）、沖縄県（0.48人）、香川県（0.43人）の順で多くなっています。（岡山県は0.11人）

・岡山県

2024年第47週まで（～11/24）に報告された HIV 感染者は3名、エイズ患者は4名で、両者を合わせた新規報告数は7名となっています（2023年第47週までの両者を合わせた新規報告数は5名（HIV 感染者3名、エイズ患者2名））。

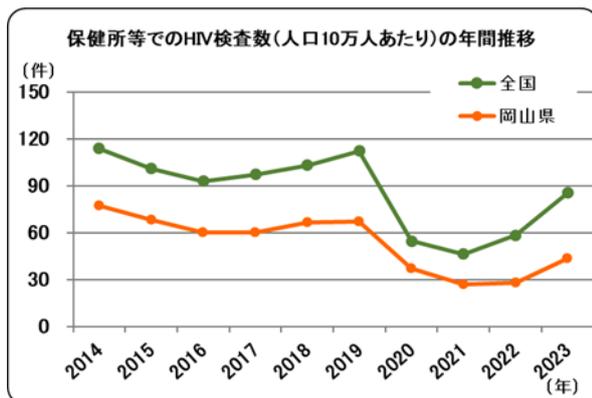


厚生労働省エイズ動向委員会 令和5(2023)年エイズ発生動向データに、感染症発生動向調査から2024年のデータを追加して作成

【岡山県内における HIV 抗体検査・相談件数】

岡山県内の保健所における相談件数は、2020年に大きく減少しましたが、2022年以降は回復傾向にあり2年連続で増加しています。全国的にも同様に2年連続で増加しています。

また、保健所および拠点病院での HIV 検査数（人口10万人あたり）についても、2020年に大きく減少しましたが、2022年以降は回復傾向にあり2年連続で増加しています。全国的にも同様に2年連続で増加しています。なお、岡山県内の保健所等での HIV 検査数（人口10万人あたり）は、全国と比較して少ない状態が続いています。



2024年12月1日 世界エイズデー

『U=U 知ることから、もう一度。12月1日は世界エイズデー。』

(「世界エイズデー」キャンペーンテーマ)



レッドリボン
エイズに対する理解と
支援の象徴

世界エイズデーは、世界レベルでの後天性免疫不全症候群（エイズ AIDS）のまん延防止と患者・感染者に対する差別・偏見の解消を目的に、WHO（世界保健機関）が1988年に制定したもので、毎年12月1日を中心に、世界各国でエイズに関する啓発活動が行われています。

近年では、HIV 治療法の進歩により、HIV 陽性者の早期発見やエイズの発症の防止が可能となっています。また、HIV が検査で検出できない程度に最低6か月以上継続的に抑えられている HIV 陽性者は、性行為によって HIV を感染させることがないことも確認されています。このことは、Undetectable（検出限界値未満）=Untransmittable（HIV 感染しない）、略して「U=U」と呼ばれています。しかし、現状はこうした変化の情報は十分に伝わっておらず、未だに「死に至る病である」という認識にとどまる人も少なくありません。そのことが HIV 感染を心配する人たちを検査や治療から遠ざけ、また、差別や偏見を招く要因の一つになっているとも言われています。

今年度の「世界エイズデー」キャンペーンテーマは、この「U=U」という言葉を知ることを契機に、もう一度 HIV/エイズのことを皆で考えてみましょうというメッセージが込められています。

[API-Net エイズ予防情報ネット「世界エイズデー」特設ページ](#)

厚生労働省エイズ動向委員会のおよそによると、2023年までに報告された HIV（ヒト免疫不全ウイルス）感染者数とエイズ患者数の累積報告数（凝固因子製剤による感染例を除く）は、35,000件を超えました。地域的、年齢的にも広がりを見せており、依然として予断を許さない状況にあります。

HIV 感染者 …… 感染症法の規定に基づく後天性免疫不全症候群発生届により、無症候性キャリアあるいはその他として報告されたもの。

エイズ患者 …… 受診時、すでにエイズを発症しており、感染症法の規定に基づく後天性免疫不全症候群発生届により、「AIDS」患者として報告されたもの（*いきなりエイズ）。
(既に HIV 感染者と報告されている症例がエイズを発症するなど病状に変化を生じた場合は除く。)

※「いきなりエイズ」とは、エイズ発症によって初めて HIV に感染したことが判明することです。
HIV 感染の治療の遅れとともに予期せぬ感染の広がりにつながる可能性もあり、対策が必要です。

12月1日の世界エイズデーにあわせて、
岡山県内の保健所・支所では、日時を拡大して検査を実施します。

[世界エイズデーについて（岡山県疾病感染症対策課）](#)

[令和6年度 保健所における「世界エイズデー」関連夜間・休日検査 日程一覧](#)

※必ず事前に電話予約をしてください

岡山県では、平成25年度から全県を挙げて、HIV 感染防止と「いきなりエイズ」防止のため、「受けやすい検査」「戦略的な普及啓発」「関係者の連携強化」を3つの柱とした「おかやまエイズ感染防止作戦」を実施しています。

[おかやまエイズ感染防止作戦（岡山県疾病感染症対策課）](#)

○岡山県保健所・支所、岡山市保健所、倉敷市保健所のエイズ検査（一部、梅毒なども含む）・
性感染症相談は、以下のリンクから詳細をご覧ください。

[岡山県保健所・支所](#)

[岡山市保健所](#)

[倉敷市保健所](#)

HIV 検査について

HIVに感染しているかどうかは、HIV 検査を受けないと分かりません。HIVに感染してからエイズ発症まで数年程度と、ある一定期間自覚症状がない時期が続くため、気づかないうちに大切な人にうつしてしまう可能性があります。

HIV は、たとえ感染しても早期に発見すれば服薬を続けることで、エイズの発症を防ぐことができます。

早期発見・早期治療がエイズ発症防止や HIV 感染拡大防止にも結びつくことから、保健所（無料・匿名）や拠点病院（一律 1,000 円・即日検査）などでの HIV 検査を積極的に利用することが望まれます。

もし HIV 検査で感染していることが分かった場合でも、県内 10 か所の拠点病院で専門的に治療を受けることができます。

岡山県内での HIV 検査

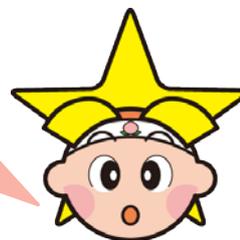
	検査法	結果時期	正しい検査結果が得られる時期	料金	予約	備考
保健所	血液検査	【通常検査の場合】 ・約1週間後 【即日検査の場合】 ・陰性⇒約1時間後（簡易迅速検査による） ・陽性⇒1週間後（確認のため） * 即日検査を実施している保健所（岡山市保健所・倉敷市保健所） * 県保健所（備前保健所・美作保健所）では、HIV検査試薬の出荷停止により、令和6年12月以降、暫くの間、即日検査を中止します。即日検査が実施できるようになりましたら、県ホームページでお知らせします	感染が疑われる機会があつてから3か月経過後	無料	必須	匿名 梅毒などの性感染症検査も同時に受けられる（梅毒の検査結果は1週間後。ただし、岡山市保健所は即日）
拠点病院		即日 (1~2時間後)				

重要！

HIV など、性感染症の検査目的での献血は、絶対に行わないでください！

HIV やその他の性感染症に感染しても、検査ではわからない期間があります。また、献血された血液を検査した結果 HIV が陽性となっても、日本赤十字社は検査結果の通知は行いません。
HIV など、性感染症の検査は、保健所または医療機関で受けてください。

全国・岡山県ともに梅毒患者の報告数が多くなっています。
性感染症に「感染したかも…」と思ったら早めに検査を受けましょう。



© 岡山県「ももっち」

今週の注目感染症②

★マイコプラズマ肺炎

●マイコプラズマ肺炎とは

マイコプラズマ肺炎は、「肺炎マイコプラズマ」という細菌に感染することによって起こる呼吸器感染症です。小児や若い人の肺炎の原因として、比較的多くみられ、例年、患者の6～8割は14歳以下です。マイコプラズマ肺炎は1年を通じて発生しますが、秋冬に増加する傾向があります。

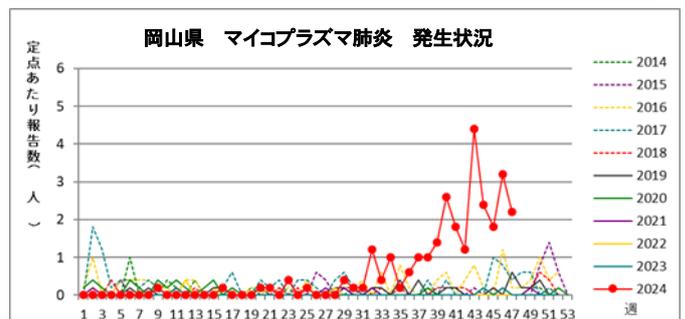
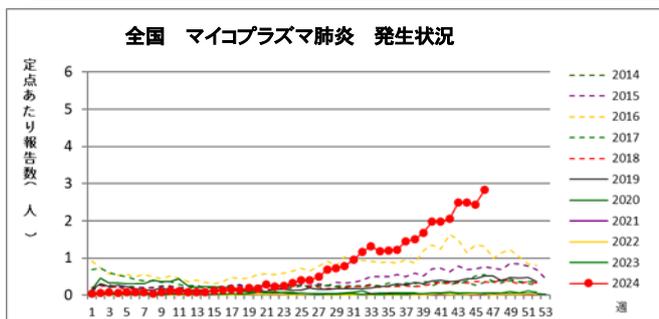
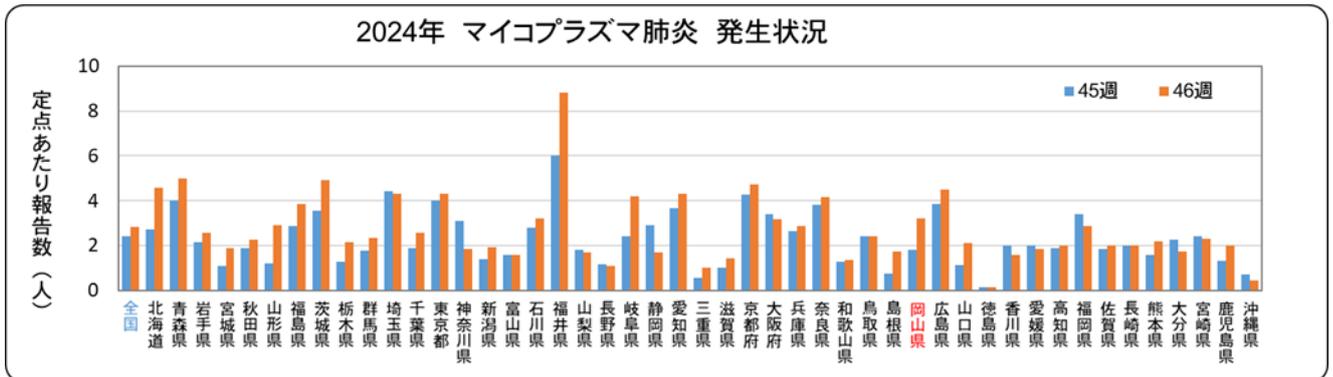
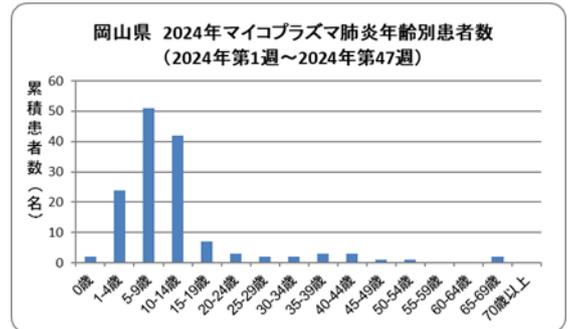
感染経路は、飛沫感染や接触感染であり、家庭のほか、学校などでも感染の伝播がみられます。感染してから発症するまでの潜伏期間は長く、2～3週間とされています。

主な症状は発熱や全身の倦怠感、頭痛、せきなどです。せきは遅れて始まることもあり、熱が下がった後も長期にわたって(3～4週間)続くのが特徴です。多くの人は気管支炎程度の軽い症状で済みますが、一部の人は肺炎を発症し、重症化します。また、中耳炎、胸膜炎、心筋炎、髄膜炎などを併発する症例も報告されています。

●発生状況

全国の第46週(11/11～11/17)のマイコプラズマ肺炎の報告数は前週から増加し(定点あたり2.43→2.84人)、過去10年間の同時期と比較して最も多くなっています。都道府県別では福井県(8.83人)、青森県(5.00人)、茨城県(4.92人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。

岡山県では第47週(11/18～11/24)は県全体で11名の報告があり(5定点医療機関報告)、前週から減少しました(定点あたり3.20→2.20人)。地域別では、岡山市で2名、倉敷市で9名の報告がありました。年齢別では、第47週までで14歳以下が全体の83%を占めています。



●治療・予防方法

マクロライド系などの抗菌薬で治療します(成人で、肺炎を伴わない気管支炎であれば、抗菌薬による治療を行わないことが推奨されています)。また、マクロライド系抗菌薬が効かない「耐性菌」に感染した場合は他の抗菌薬で治療します。

予防としては、患者との濃厚接触やタオルの共用を避け、せっけんや流水による手洗いの実施、マスク着用を含む咳エチケットなどの一般的な感染防止策が効果的とされています。

せきが長引くなどの症状がある時は、医療機関を受診するようにしましょう。

詳しくはこちらをご覧ください⇒[マイコプラズマ肺炎\(厚生労働省\)](#)

[マイコプラズマ肺炎に関するQ&A\(厚生労働省\)](#)

[マイコプラズマ肺炎とは\(国立感染症研究所\)](#)

◆◆◆ 食中毒予防の3原則 ◆◆◆

岡山県は腸管出血性大腸菌感染症注意報を発令中です！

➤ 「清潔」（菌をつけない）

- ・調理前、食事前、トイレ後には、石けんと流水で手をよく洗いましょう。
- ・まな板、ふきん等の調理器具は、十分に洗浄・消毒を行いましょう。
- ・焼肉をする時は、生の肉をつかむはしと食べるはしを使い分けましょう。

➤ 「迅速・冷却」（菌を増やさない）

- ・生鮮食品や調理後の食品は、できるだけ早く食べましょう。
- ・生鮮食品や調理後の食品は、10℃以下で保存しましょう。
（生食用鮮魚介類は、4℃以下で保存するよう努めましょう。）

➤ 「加熱」（菌をやっつける）

- ・加熱して食べる食品は、中心部まで十分に火を通しましょう。
- ・特に、食肉は中心部の色が完全に変わるまで十分に火を通し、生食は避けましょう（腸管出血性大腸菌は、75℃、1分間以上の加熱で死滅します）。



0157 の電子顕微鏡画像
(国立感染症研究所)

[食中毒予防の3原則（岡山県生活衛生課）](#)

[家庭でできる食中毒予防の6つのポイント（厚生労働省）](#)

[家庭でできる食中毒予防の6つのポイント（厚生労働省作成チラシ）](#)

ダニが媒介する感染症に注意しましょう！

野外にいる吸血性のダニとして、マダニやツツガムシなどが知られており、これらのダニの中には、**日本紅斑熱、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)***、**つつが虫病**などを引き起こす病原体を保有しているものがあります。

ダニは、春から秋(3月～11月)にかけて活発に活動します。

野外で作業する際は、肌の露出を少なくし、こまめに虫除け剤(マダニ、ツツガムシの忌避を効能としているもの)を噴霧するなどし、ダニに刺咬されないようにしましょう。

また、野外での作業後は、シャワーや入浴を行い、ダニが付いていないかチェックをしましょう。

※SFTSはSFTSウイルスに感染したイヌやネコからの感染も報告されています。
体調不良のペットや野生動物との接触は避けましょう。

★★ くわしくは、こちらをご覧ください ★★

⇒ [日本紅斑熱とは（国立感染症研究所）](#)

⇒ [重症熱性血小板減少症候群\(SFTS\)に関するQ&A（厚生労働省）](#)

⇒ [ツツガムシ病とは（国立感染症研究所）](#)

⇒ [マダニ対策、今できること（国立感染症研究所）](#)



吸血後の
フタゲチマダニ♀



ヤマアラシチマダニ

岡山県環境保健センター
ウイルス科 撮影画像

インフルエンザ週報 2024年 第47週 (11月18日～11月24日)

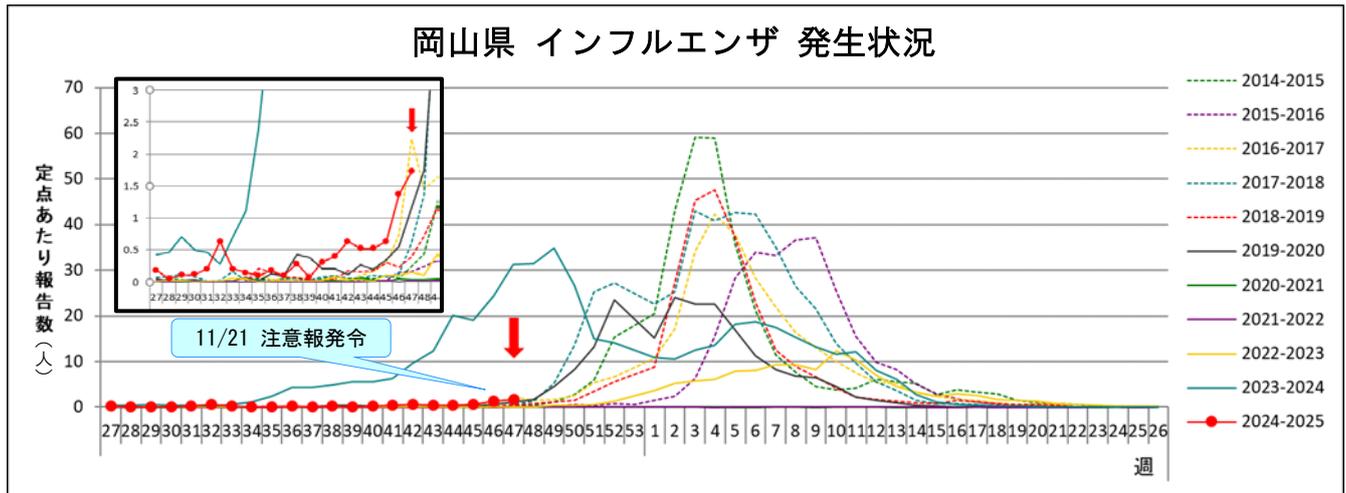
岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です

岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で145名（定点あたり1.73人）の報告がありました（84定点医療機関報告）。
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が6施設でありました。
- インフルエンザによる入院患者4名の報告がありました。

【第48週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が8施設でありました（11月25日～27日）。



インフルエンザは、県全体で145名の報告があり、前週から増加しました（定点あたり1.37 → 1.73人）。岡山県は11月21日に「インフルエンザ注意報」を発令し、広く注意を呼びかけています。地域別では、真庭地域（4.33人）、備中地域（2.58人）、倉敷市（2.25人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況に注意するとともに、基本的な感染防止策（場面に応じたマスクの着用、手洗い等の手指衛生、人混みを避ける）、健康的な日常生活、あらかじめの備え（早めのワクチン接種）等に留意し、感染予防・感染対策に努めましょう。

◆インフルエンザの流行拡大が懸念されます！ 感染に注意しましょう◆

【予防と対策】

- 基本的な感染防止対策
 - ・場面に応じたマスクの着用、手洗い、手指消毒の実施
 - ・室内の適度な湿度の設定、定期的な空気の入換え
 - ・高齢者や基礎疾患のある方などは、人混みを避ける
- 健康的な日常生活
 - ・十分な休養、バランスのとれた食事
- あらかじめの備え
 - ・早めのインフルエンザワクチン接種

【発熱等の症状が出た時は】

- 早めに医療機関を受診する
 - 周りの方へうつさないように「咳エチケット」を！
 - 水分を十分にとり、安静にして休養をとる
- ⇒ 詳細は岡山県ホームページ [『インフルエンザ対策について』](#) をご覧ください。

1. 地域別発生状況

地域名	発生状況 (人)		推移	地域名	発生状況 (人)		推移
岡山県全体	患者数	145	↑	備 中	患者数	31	↑
	定点あたり	1.73			定点あたり	2.58	
岡山市	患者数	35	↑	備 北	患者数	7	↑
	定点あたり	1.59			定点あたり	1.17	
倉敷市	患者数	36	→	真 庭	患者数	13	↑
	定点あたり	2.25			定点あたり	4.33	
備 前	患者数	19	↑	美 作	患者数	4	→
	定点あたり	1.27			定点あたり	0.40	

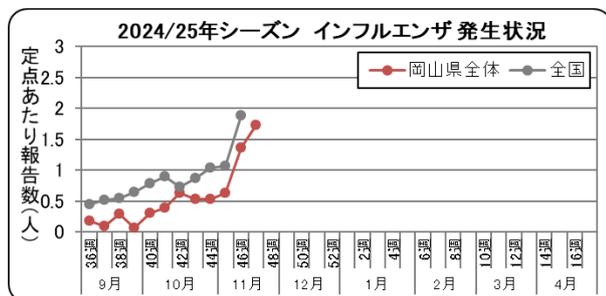
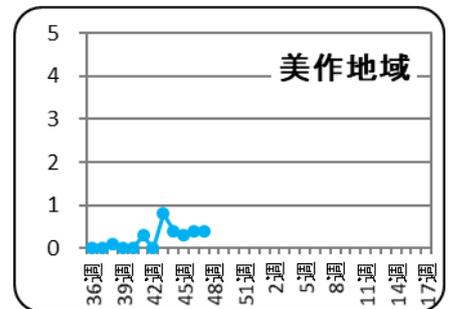
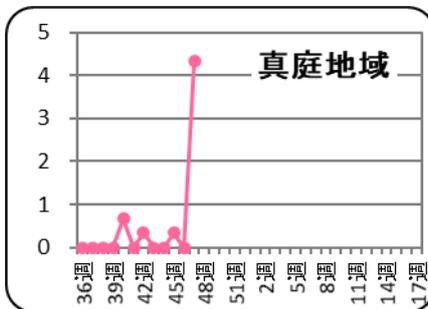
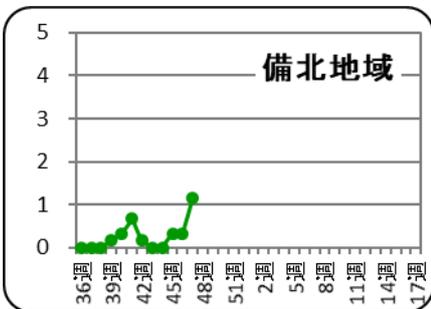
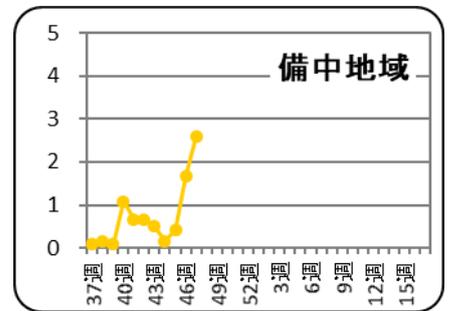
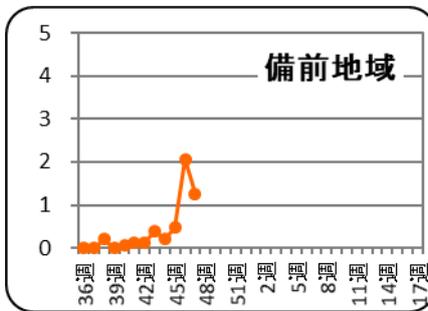
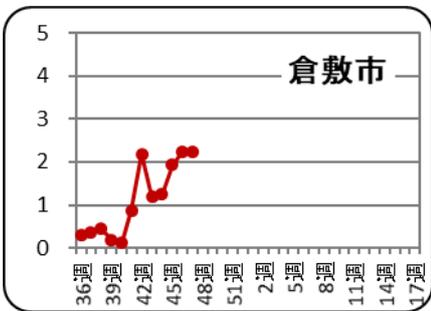
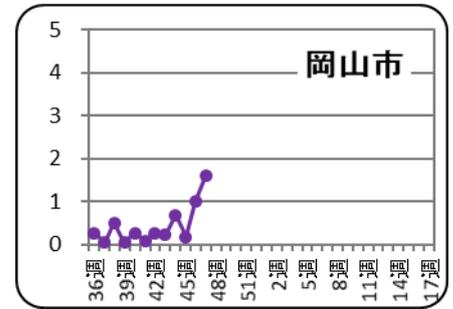
【記号の説明】 前週からの推移 ↑ : 大幅な増加 ↗ : 増加 → : ほぼ増減なし ↘ : 減少 ↓ : 大幅な減少
 大幅 : 前週比 100%以上の増減 増加・減少 : 前週比 10~100%未満の増減

インフルエンザ感染症マップ



<インフルエンザ発生レベル 基準>

レベル3		レベル2
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10 以上 30 未満
レベル1		報告なし
基準値		基準値
0 < 10 未満		0

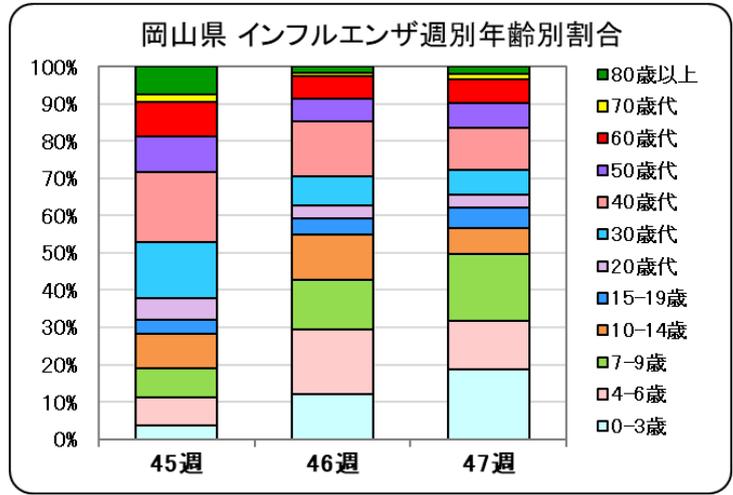
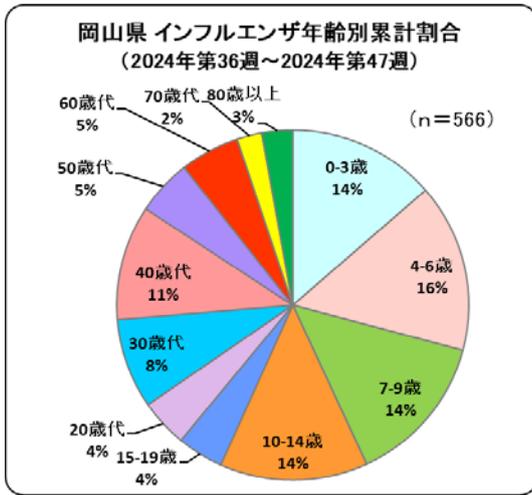


全国集計 2024 年第 46 週 (11/11~11/17) 速報値によると、全国の定点あたり報告数は 1.88 人となりました。

都道府県別では、沖縄県 (5.02 人)、福岡県 (3.49 人)、山形県 (3.28 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。45 都道府県で前週の報告数から増加しました。

[インフルエンザの発生状況について \(厚生労働省\)](#)

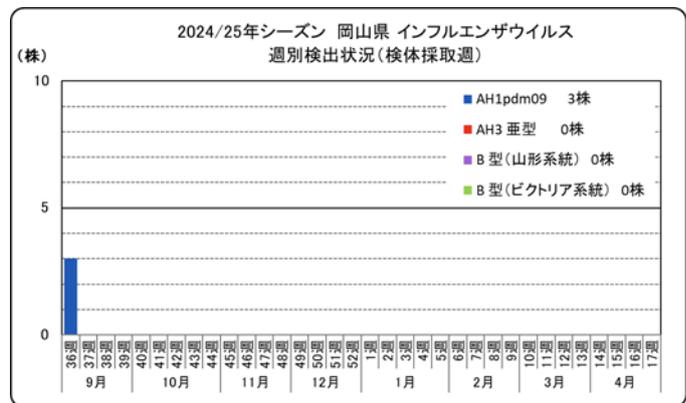
2. 年齢別発生状況



3. インフルエンザウイルス検出状況

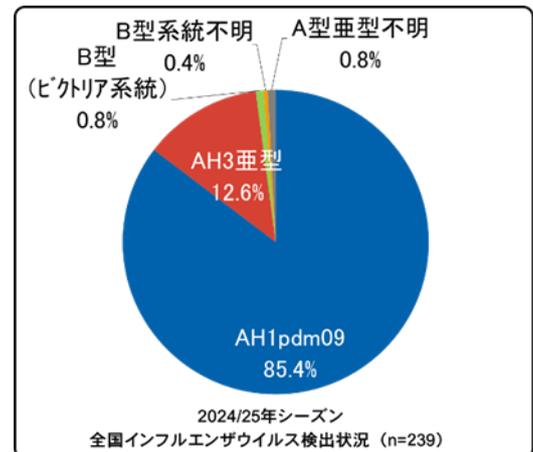
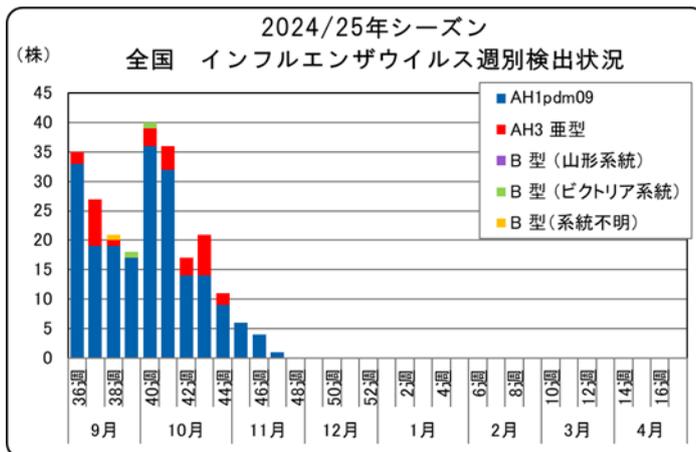
2024年第47週、環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスはありませんでした。

今シーズンこれまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは3株で、その内訳は、AH1pdm09が3株となっています。



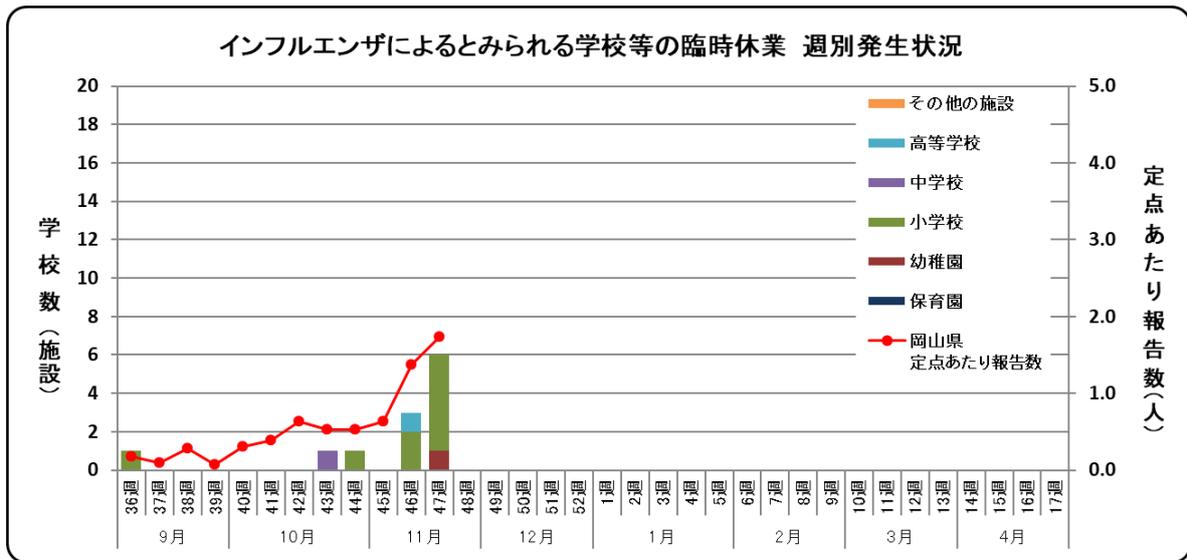
今シーズン、全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09が204株、AH3亜型が30株、B型(ビクトリア系統)が2株、B型系統不明が1株、A型亜型不明が2株となっています(11月26日現在)。

[インフルエンザウイルス分離・検出速報\(国立感染症研究所\)](#)



4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が、6施設でありました。



臨時休業施設数の内訳

	保育園	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	その他	計
第47週	0	1	5	0	0	0	6
累計	0	1	9	1	1	0	12

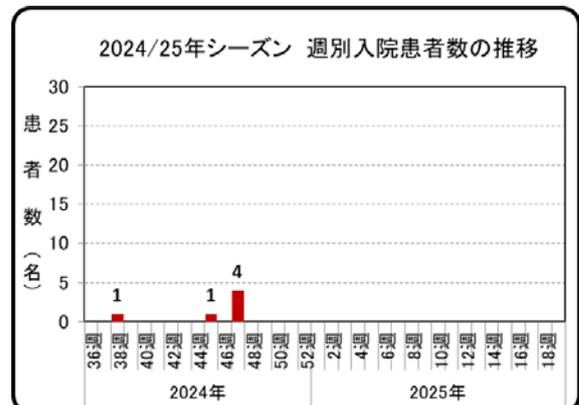
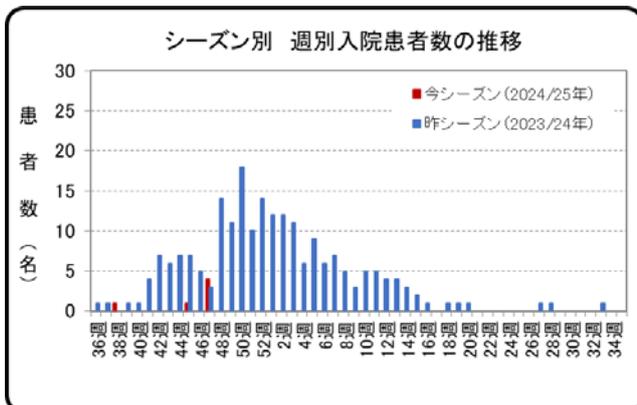
最新の臨時休業の情報については以下のホームページをご覧ください。

→ [\(R6年度シーズン\) 岡山県内の学校等におけるインフルエンザとみられる臨時休業](#)

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は、4名（1～4歳1名、60～69歳1名、80歳以上2名）の報告がありました。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので、注意が必要です。幼児ではまれに急性脳症を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずウトウトしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関を受診しましょう。



【第 47 週 入院患者報告数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数		1								1		2	4
ICU入室*													
人工呼吸器の利用*													
頭部CT検査(予定含)*													
頭部MRI検査(予定含)*													
脳波検査(予定含)*													
いずれにも該当せず		1								1		2	4

* 重複あり

【2024年9月2日(第36週)以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数	1	1								2		2	6
ICU入室*										1			1
人工呼吸器の利用*													
頭部CT検査(予定含)*													
頭部MRI検査(予定含)*													
脳波検査(予定含)*													
いずれにも該当せず	1	1								1		2	5

* 重複あり

[令和6年度 インフルエンザQ&A\(厚生労働省\)](#)
[令和6年度 今シーズンのインフルエンザ総合対策について\(厚生労働省\)](#)

保健所別報告患者数 2024年 47週(定点把握)

(2024/11/18~2024/11/24)

2024年11月28日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当														
インフルエンザ	145	1.73	35	1.59	36	2.25	19	1.27	31	2.58	7	1.17	13	4.33	4	0.40
RSウイルス感染症	1	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.50	-	-
咽頭結膜熱	13	0.24	4	0.29	-	-	2	0.20	-	-	-	-	1	0.50	6	1.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	57	1.06	10	0.71	16	1.45	6	0.60	23	3.29	-	-	-	-	2	0.33
感染性胃腸炎	133	2.46	50	3.57	13	1.18	31	3.10	17	2.43	12	3.00	2	1.00	8	1.33
水痘	1	0.02	-	-	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病	52	0.96	19	1.36	6	0.55	9	0.90	6	0.86	1	0.25	1	0.50	10	1.67
伝染性紅斑	3	0.06	-	-	1	0.09	-	-	1	0.14	-	-	1	0.50	-	-
突発性発疹	12	0.22	4	0.29	4	0.36	-	-	3	0.43	-	-	-	-	1	0.17
ヘルパンギーナ	4	0.07	1	0.07	1	0.09	-	-	1	0.14	-	-	-	-	1	0.17
流行性耳下腺炎	7	0.13	-	-	-	-	1	0.10	-	-	6	1.50	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	0.17	-	-	1	0.25	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	1	0.20	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	11	2.20	2	2.00	9	9.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2024年 47週(発生レベル設定疾患)

(2024/11/18～2024/11/24)

2024年11月28日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当														
インフルエンザ	145	1.73	35	1.59	36	2.25	19	1.27	31	2.58	7	1.17	13	4.33	4	0.40
咽頭結膜熱	13	0.24	4	0.29	-	-	2	0.20	-	-	-	-	1	0.50	6	1.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	57	1.06	10	0.71	16	1.45	6	0.60	23	3.29	-	-	-	-	2	0.33
感染性胃腸炎	133	2.46	50	3.57	13	1.18	31	3.10	17	2.43	12	3.00	2	1.00	8	1.33
水痘	1	0.02	-	-	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病	52	0.96	19	1.36	6	0.55	9	0.90	6	0.86	1	0.25	1	0.50	10	1.67
伝染性紅斑	3	0.06	-	-	1	0.09	-	-	1	0.14	-	-	1	0.50	-	-
ヘルパンギーナ	4	0.07	1	0.07	1	0.09	-	-	1	0.14	-	-	-	-	1	0.17
流行性耳下腺炎	7	0.13	-	-	-	-	1	0.10	-	-	6	1.50	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	0.17	-	-	1	0.25	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2024年 第47週 2024/11/18~2024/11/24)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~	
インフルエンザ	145	2	-	10	11	4	11	3	5	7	10	9	10	8	5	10	16	10	9	2	3

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20~	
RSウイルス感染症	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	13	-	2	3	1	3	2	-	1	-	-	-	-	1	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	57	-	-	1	2	4	8	7	7	5	7	3	11	1	1
感染性胃腸炎	133	-	7	14	11	11	11	11	10	12	6	12	3	14	
水痘	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
手足口病	52	-	-	14	7	5	7	7	6	2	-	1	1	1	1
伝染性紅斑	3	-	1	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	
突発性発疹	12	-	3	7	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヘルパンギーナ	4	-	1	1	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	
流行性耳下腺炎	7	-	-	-	-	-	-	1	1	-	5	-	-	-	

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70~	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70~
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	11	-	2	2	4	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

保健所別

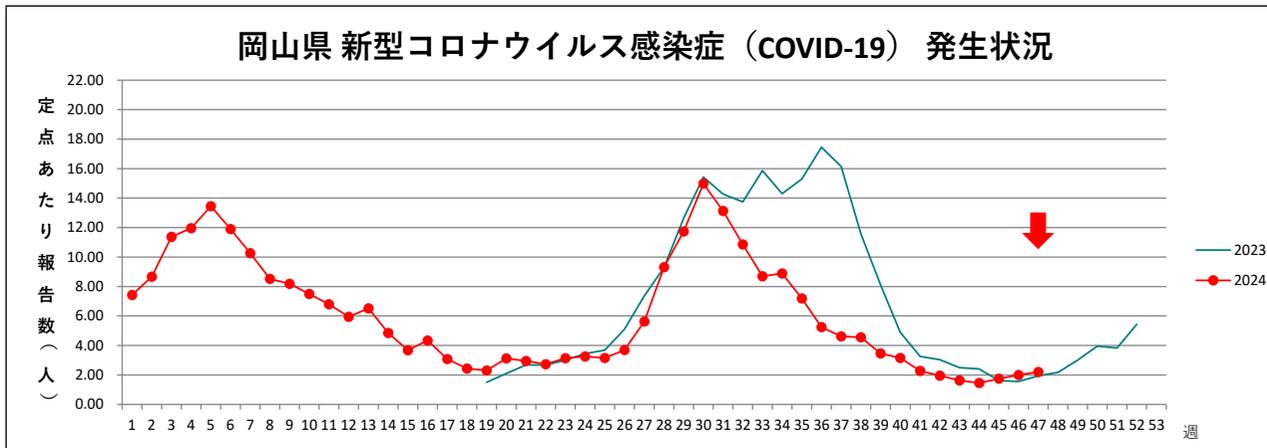
疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当														
新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)	185	2.20	13	0.59	49	3.06	24	1.60	43	3.58	17	2.83	4	1.33	35	3.50

(- : 0 or 0.00)

年齢別

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~
新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)	185	1	4	3	1	1	2	1	1	3	-	1	16	5	11	18	18	21	21	22	35

(- : 0)



全数把握 感染症患者発生状況

2024年 47週

分類	疾病名	2024		2023	疾病名	2024		2023	疾病名	2024		2023
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-								
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	1	220	211	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-								
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	1	1	腸管出血性大腸菌感染症	-	59	104
	腸チフス	-	2	1	パラチフス	-	-	-				
四類	E型肝炎	-	1	2	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	4	-
	エキノкокクス症	-	-	-	エムポックス	-	-	1	黄熱	-	-	-
	オウム病	-	-	1	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-
	キャサヌル森林病	-	-	-	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-
	コクシジオイデス症	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	1	4
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	-	4
	デング熱	-	-	-	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本紅斑熱	1	21	13	日本脳炎	-	-	-
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	ボツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	-	-
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	40	50
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-				
五類	ア메ーバ赤痢	-	8	11	ウイルス性肝炎	-	5	4	カルバベナム耐性腸内細菌目細菌感染症	-	31	28
	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	2	1	急性脳炎	1	8	11	クリプトスポリジウム症	-	-	-
	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	1	-	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	29	10	後天性免疫不全症候群	-	7	5
	ジアルジア症	-	1	1	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	11	10	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	2	-
	侵襲性肺炎球菌感染症	1	30	35	水痘(入院例に限る。)	-	11	5	先天性風しん症候群	-	-	-
	梅毒	5	316	316	播種性クリプトコックス症	-	5	2	破傷風	-	-	4
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	2	百日咳	-	15	22
	風しん	-	-	-	麻しん	-	-	-	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	2

